

図書館教育

令和5年度 図書館教育年間計画

年間を通して、継続的に子どもたちが本に興味を持つことができるよう、月に1度の全職員によるブックトーク、学期に1度の全児童によるビブリオバトル、全家庭で月に1度の母子家庭読書の日を行っています。また、学校司書による図書の展示も充実してきました。

全校児童14名の小規模校であることを活かして取り組むことで、どの児童も本の面白さを感じ、読書に親しむことができるようになってきています。

ブックトーク

毎月1回月曜日をブックトークの日として実施をはじめ、9年目になります。ブックトーク

とは、テーマを決めていろいろなジャンルの本を、短い時間でつないで紹介するものであり、読み聞かせとはねらいが異なります。聞き手である児童に、その本を「読みたい」と興味を持たせるために行います。ブックトークは読み聞かせと比べ、短時間に何冊も本を目にすることができます。季節や学校の行事に合わせて本を紹介することで、子どもたちは「今日の図書の日は、ブックトークがあるのですね!」と、毎月のブックトークを楽しみにしています。1年間で、およそ60冊の本を子どもたちに紹介しています。

全職員が年に1回ブックトークを行っています。



今年度のテーマは、「山」「なぞ?」「地球」「冬」「魔法遣いがいっぱい」「冒険」「夢」等でした。それぞれ教師がテーマに合った本を紹介し、子どもたちの本への関心を高めていました。

学期に1度の ビブリオバトル

学期に1度は、全校児童が参加し、ビブリオバトルを行っています。ビブリオバトルとは、制限時間(たとえば3分間)内に、おすすめの本1冊を紹介する紹介合戦です。聴衆(児童)は、紹介された本の中から、読んでみたいと思った本に1票を投票し、得票数の多かった本がチャンプ本になります。

年間に3回行うことで、子どもたちは聞き手を惹きつける工夫と、選ぶ本を厳選してくることができるようになってきます。子どもたちが手に取りたい本を図書室に揃え、効果的に紹介し合うことで、どの子も本が好きになりました。図書の時間を楽しみにし、隙間の時間ができると黙々と本を読む子どもたちの姿が、母子小学校にはあります。



ビブリオバトルで子どもたちが身につけた工夫



今年度1年生は、3学期から参加しました。学年を追うごとにみんなに興味を持ってもらうための工夫がたくさんできるようになってきました。また、6年生になるとみんなの反応を見ながら読み進めています。これからも楽しみなビブリオバトルです。

母子家庭読書の日

家庭読書の充実に取り組むことで、児童のこぼの力の育成と豊かな人生作りの基盤を養うことをねらい、毎月20日は家庭で読書を楽しむ日としています。

読んだ本は、三田市内の児童生徒全員が持つ「読書通帳」に記録し、月に1度の読書の記録になります。

学校司書による読書活動

図書の時間の読み聞かせはもちろんのこと、季節やテーマに合わせて子どもたちの興味に合わせた本の展示を行っています。また、子どもたちにこんな本を読んだらどうかというアドバイスもたくさんしていただいています。

子どもたちが読みたい気持ちを持つきっかけになればと願っています。

今年度は、育友会からも図書の本を購入していただきありがとうございました。子どもたちの読書活動をさらに充実したものにしていきたいと思ひます。